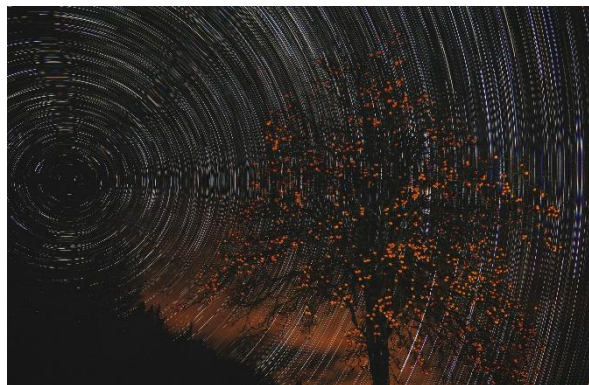


2019 秋ふおと広島フォトコンテスト 審査結果

主催: 全日本写真連盟広島県本部
応募者数: 48人 応募点数: 188点
審査・講評: 弓場康廣(関西本部委員)

推薦



「晩秋の夜景」

向井景昭(府中町・広島タウン支部)

満点の星空とたわなに実った柿の木の組み合わせに驚きを感じます。北極星の位置、晴れた無風の夜、露出など綿密な計算とともにそれ以前の作者の発想力、そして実現する熱意に敬服します。

準特選



「父子で野焼き」

奥本泰久(東広島市・東広島支部)

中望遠のプレッシャーを感じさせない、ほどよい距離で山里の秋の暮らしが自然に捉えられています。軟らかい光の中、背景のススキ、人物、野焼きの火の配置など何のてらいもない画面構成に好感が持てます。

特選



「朝の散歩」

宮田順正(広島市・フォトプラス支部)

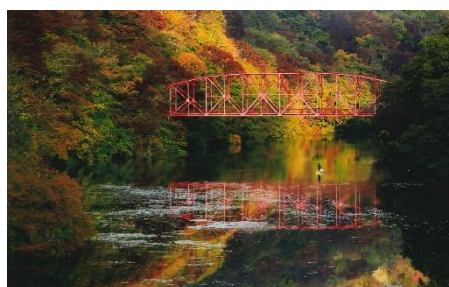
アンバー系のモノトーンにまとめられ、暖色系でありながら早朝のひんやりした空気感があります。朝焼けが2頭の鹿を浮き上がらせ、一点を見つめる鹿の視線が作品に心地よい緊張感を醸し出しています。



「赤ソバの朝焼け」

原田今朝弘(広島市・デジタル支部)

朝焼けの空が印象的です。広角レンズによって画面に遠近感を出し花畑の広さを出しています。落ち着いた色調で画面全体に統一感があり、作者のすぐれた色彩感覚がうかがわれる作品です。



「神龍湖秋景色」

杉岡常久(広島市・佐伯支部)

山間の秋の華やかさと静けさが捉えられています。適切な露出設定によって明るい黄葉から湖面の映り込み、深緑の影の部分まできちんと描写され調子の整った作品です。小さなボートと人物が画面を引き締めています。



「あかく染まる池」

田中利弘(呉市・呉支部)

秋の池を紅葉の映り込み、波紋、緑の葉の3色で捉えた鮮やかな作品です。鯉の位置が的確で画面に重みを感じさせます。丁寧なプリント仕上げが作者の繊細な人柄を感じさせます。

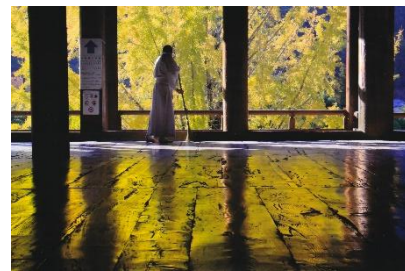
入選 (都道府縣市・支部)



「錦 秋」
安田慶子
(東広島市・広島タウン支部)



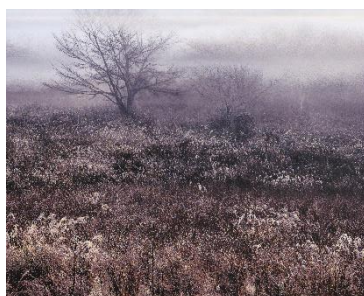
「朝陽と共に」
森藤勝弘
(広島市・一般)



「朝のお勤め」
荒川純一
(広島市・佐伯支部)



「群スズメ」
瀬尾 清
(海田町・フォトプラス支部)



「晩秋の早朝」
池田安宏
(広島市・デジタル支部)



「実をつけた大柿」
徳田和代
(広島市・広島タウン支部)



「散り紅葉」
辻 良子
(広島市・フォトプラス支部)



「小春日和」
荒木京子
(広島市・フォトジェンヌ支部)



「湖中に立つ」
三次凱彦
(広島市・広島支部)



「鈴なり」
木本剛義
(広島市・佐伯支部)